
 卷 頭 言 

日本ライトハウス職業生活訓練センター

坂 本 美 磨 子

時がたっても深く心に残っている言葉がある。一昨年秋、川上泰一先生の点毎文化賞受賞記念祝賀会でのこと、川上先生への感謝をこめた祝辞として、「漢点字を習得したおかげで、やっと一般の方々と対等に話ができるようになった」と発言された方があった。その「対等に」という言葉がそれである。40代半ばぐらいだろうか、確か盲学校で教鞭をとっておられる方だった。その後も漢点字の機関誌などで、漢点字修了者の喜びの声には同様な表現が多い。言い換えれば、漢点字を知らない間は一般の人達と対等に話ができないという意味ではないだろうか。自覚するか否かは別問題として、6点の仮名点字だけでは、幾ら勉強しても満足感が得られなかったのではないだろうか。

もちろん6点の仮名点字は素晴らしい。しかし、これを読んで下さる方に一度、タイプかワープロで、仮名（平仮名か片仮名かどちらか一方に限る）、数字、アルファベットの3種類だけを使用して文章に直し、それを読み返してみたい。多分読みながら、自然と漢字に置き換えているのにお気づきだと思う。が、仮名点字だけで教育を受けた視覚障害者には、置き換えるべき漢字が無いのである。

他方、晴眼者ならば、幼児期からテレビコマーシャルや、電車の中の広告、看板などで、漢字仮名交じりの言葉文化に浸っている。もちろん、幼児期では文字というより絵の感覚で吸収しているのだろうが、繰り返し視覚的刺激を受けて、大体義務教育期間中には、言葉と漢字が一体となって自然と身に付くようだ。もちろん、読書の多寡によって個人差はあるにしても、漢字に関する常識の範囲が広いことは事実のようだ。

そこで、一つ提案をしたいと思う。盲学校においても、仮名点字がある程度読める段階で、8点漢字の中でも読み易い字を少しずつ交ぜた教材を使用することは無理だろうか。国語、算数、社会などで一つの漢点字のいろいろな読み

方、使われ方、その字の持つ意味などが分かれば、子供は興味を覚えつつ、自然に漢点字を身近なものとして漢字仮名交じりの日本語の世界に入ってくるだろう。部首などは相当数読み終えた時点で改めて整理すればよいだろう。

現在、私が漢点字を指導している訓練生はほとんど義務教育修了者ばかりである。墨字生活の長かった中途視覚障害者は、漢点字さえ覚えれば即ワープロを利用している。それに引き換え、仮名点字のみで教育を受けて来た訓練生達は言葉と漢点字がなかなか結び付かず、文章を書く時にどの漢点字を使えばよいか戸惑ってしまうのである。短期間での指導は読み書きのチャンスを増やして繰り返すしかないようだ。

今、点字の世界では、8点式漢点字か6点漢字かが問題にされながら、いずれも義務教育に取り入れられていない。しかし、読み物として触読する場合、原文どおり漢字仮名交じり文として読み易いのは漢点字である。小学生時代から漢字仮名交じり文に慣れ親しんで、漢字に強くさえなっていれば、ワープロを使う段階になってから、漢点字でもよし、更にワープロが入手し易い6点漢字に改めて挑戦することも、さして骨の折れることではないだろう。何よりもまず視覚障害者に対しても、日本語本来の漢字仮名交じり文による義務教育が、根本問題ではないだろうか。

**社会福祉法人 日本ライトハウス  
職業・生活訓練センター 訓練生募集**

あなたの周囲に眼の不自由な方で、日常生活動作や歩行あるいは読み書きの問題などで困っている方はおられませんか!!

日本ライトハウス職業・生活訓練センターでは有能なる社会人の創造をめざして一般社会で晴眼者と共に生活できるよう、社会適応訓練を実施いたしております。さらに、希望に応じて電話交換手・コンピュータープログラマー・機械工等の職業訓練も行なっています。

詳しくお知りになりたい方、及び相談されたい方のために毎月第2と第4土曜日の午前中に予約制で面接相談を行なっておりますので、お気軽に御連絡下さいませようお願いいたします。

なお、パンフレットを請求される方は70円切手を同封の上、下記へお申し込み下さい。

社会福祉法人 日本ライトハウス 〒538 大阪市鶴見区今津中2丁目4-37  
職業・生活訓練センター TEL 06-961-5521